カンボジア水道のDX導入に向けたKWSの活動

木山聡・北九州ウォーターサービス海外戦略部長に聞く

北九州市の上下水道分野の海外支援は1990年代から始まった。カンボジアの水道支援などは〝プノンペンの奇跡〟と称され、世界的にも評価は高い。近年、北九州市海外水ビジネス協議会（KOWBA）のもと官民連携で成果を上げており、今後のさらなる展開が期待される。今年に入ってカンボジアの水道分野ではDXの本格的な検討が始まった。この新たな取り組みを支援する北九州ウォーターサービス（KWS）の木山聡・海外戦略部長にDX導入の背景や今後について話を伺った。

MISTI主催「科学の日」でバンディー大臣（中央）と

「DX関連での連携も」と木山部長

水需要の急増をDX導入で

KWSの支援でシステム構築へ

―北九州市のカンボジア水道における支援活動からお話しください。

木山部長　北九州市水道分野のカンボジア支援は1999年に専門家派遣から始まります。その頃、JICAはシェムリアップ市における新浄水場整備の援助を決め、人材育成事業に着手するなか北九州市も参画し、以降カンボジアでの支援エリアを広げてきました。

2011年にはKOWBAを設立し、国のインフラ輸出の動向に合わせながら、北九州市と官民共同で取り組み、その事務局はKWSが担っています。

―KWSの活動状況はいかがですか。

木山　2011年に北九州市が案件形成したシェムリアップ市浄水場のコンサルティング業務を受注しました。その後も市が案件形成を行い、KWSがコンサルタント業務を担うというかたちで2016年頃まで事業展開してきました。

2019年のコンポントムやタクマウ上水道拡張計画は設計から建設、運営までを行う画期的な案件でした。KOWBAメンバー、北九州市らが建設から運営にまで携わり、KWSも建設側に参画しています。

首都のプノンペンの水道普及率は約80％を超えていますが、地方の水道全体では約30％とまだ開発が必要です。KWSとしてもビジネス案件の獲得や支援活動をさらに充実させたいと考えています。

―カンボジア水道でDX導入が始まった背景といいますと。

木山　カンボジアは人口が急増し、それに合わせて水需要が急速に拡大しています。この成長スピードに合わせ、経営や施設の安定的な管理を行うことは急務です。また長期的な人材育成はもちろんですが、ある程度ショートカットして進めていかねばならない面もありますから、ITの活用が必要なのです。

特に複数浄水場の統合管理、資産管理データの統合運営など、経営管理に資するシステム構築が求められています。

―DX導入の支援状況はいかがですか。

木山　カンボジアは政策課題の対応として四辺形戦略を掲げています。成長・就業・平等・効率の4辺形で経済や外交を進めていこうというものです。昨年、もう1辺形が加わったのです。それが〝デジタル〟です。現在は5辺形戦略で諸施策を展開しているのです。

一方、日本政府は開発協力大綱を改定し、オファー型協力を打ち出しました。我が国の強みを生かして相手国に提案し、共に作り上げていくODAの新しい形です。昨年12月のカンボジアとの首脳会議では国立データセンター整備、通信ネットワーク高度化などの具体的な協力メニューに合意しています。

この合意文書の流れで、水道分野のDX導入となり、KWSがプロジェクトを提案、事業費約10億円で取り組むものです。

既にKWSはジェトロの資金を活用し、コンポントム水道拡張事業においてIT活用にチャレンジしています。今年1月末にデータ収集が出来るようになり、浄水場の運用管理、流量、水圧、使用電力量、さらに配水管網などの情報を扱っています。もっと活用の幅を広げてカンボジア流のDX構築に持っていきたいと進めているところです。

カンボジア人のDXへの関心は非常に高いものがあります。水道分野は遅れている分、ジャンプアップするだろうと期待しています。

―今後の展開といいますと。

木山　プノンペン都以外の公営水道へもDXを拡大させたい。そしてコンサルティング業務、施設整備、ITによる維持管理などを関連させたビジネスベースを構築したいと考えています。

私自身、水道局にいるころ、配水管理システムの開発に長く従事していましたので、その経験を活かしたいと思っています。

プノンペン都水道ではDX導入に向けた検討委員会を発足させ、今年3月27日に初会合を開きました。私も出席し、DXの概念についての説明などを行いました。

部門間の壁をなくすメリットなどが理解しにくそうな印象でしたが、デジタル戦略は彼らカンボジア人が作っていくものです。戦略が定まったら、拡大していく可能性は大きいと感じました。

今、カンボジア水道には日本以外の外国勢からのアプローチが多々あります。DX関連でしっかり連携しておかないとビジネス案件も取られてしまうのではないかと危惧するところです。

―カンボジアの最近の話題といいますと。

木山　昨年8月にフン・マネット新首相が就任し、主要閣僚も一気に若返りしました。

上下水道担当となる工業・科学・技術・革新（MISTI）相に就任したヘム・バンディー氏は、これまでの支援活動を通して旧知の間です。日本の留学経験があり、親日かつ知日派の大臣です。

また公営水道が公社化されたことで決裁権なども拡大しています。公社の幹部クラスも交代したことで、再度、北九州グループの取り組みを説明してきました。DX導入も始まるなか、良い機会になったと思います。

―ありがとうございました。

北九州代表団とMISTI幹部